

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します



令和6年度 事業報告書



目次

1 ご挨拶 1

山内 克哉 浜松医科大学医学部リハビリテーション医学講座 教授
谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院医師トータルサポートセンター 特任講師

2 事業について 3

・活動概要 ・取り組み ・構成メンバー ・協議会

3 実績報告 5

- ・成果
 - ①就業・復職・キャリア形成支援について
 - ②相談事業について
 - ③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について
 - ④浜松医科大学との連携
 - ⑤県内医療機関との連携
 - ⑥令和6年度静岡県医師数アンケート報告
- ・活動報告
 - ①啓発活動
 - ②相談窓口の設置
 - ③センターの活用
 - ④マタニティ白衣の無料貸出し

4 広報活動・情報発信 28

- ① ホームページ・SNSでの周知について
- ② パンフレットの配布
- ③ 周知カードの配布
- ④ 冊子『じぶんらしく たのしく はたらく』を発行
- ⑤ 講演会・シンポジウム等の参加
- ⑥ メディア掲載

5 アクセス・発行について 34

ご挨拶



センター長挨拶

山内 克哉
浜松医科大学医学部
リハビリテーション医学講座 教授

静岡県の医師数は人口10万人あたり23.0.1人と全国平均を32人下回る水準で、全国39位に位置し、医師不足が深刻な状況にあります。女性医師支援は、医師不足の解消という目的もあります。浜松医科大学では、平成21年～25年にかけて「静岡周産期医師長期支援プログラム」を文部科学省の事業として行い、平成25年から27年まで女性医師支援相談窓口設置事業が静岡県の浜松医科大学への補助事業として行われた後に、平成27年より浜松医大女性医師支援センター（現：浜松医大医師トータルサポートセンター）が、静岡県のふじのくに女性医師支援センターとしても機能しています。出産や育児等により離職した女性医師の復帰は、静岡県の医療にとっても実現すべき重要な目標となっています。地道な活動の継続により年々女性医師の復帰率も向上しています。

女性医師にとっての共通の悩みは、結婚や出産・育児と仕事の両立です。子育てを行っている期間、女性医師は長期休職となることが多く、復帰しても非常勤として働くことが多いのが現状です。特に時間外勤務や夜勤が多い診療科では、出産、育児により現場を去る女性医師が増加しています。県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取り組みを積極的に実施することで、女性医師が更に活躍する仕組みを構築しています。出産後早期の職場復帰をサポートし、非常勤医師の常勤化を促していきたいと考えています。

女性医師の職場復帰にとって、情報の集積と発信は大きなツールとなるため、県内の各病院が行っている女性医師の復帰プログラムや支援内容、務形態や給与などの情報を集積しています。情報収集や各病院の条件面の交渉は、当センターの谷口医師が県内病院を訪問し、大きな成果を挙げています。コロナの収束とともに、病院訪問も増えてきました。病院訪問時は、積極的な情報交換をお願い申し上げます。ふじのくに女性医師支援センターへの相談件数は年々増加し、県外からの就業相談も増え、広報戦略が功を奏し手応えを感じています。

相談内容は、病院の勤務形態や専門医の取得、知識・手技の取得や研究の継続といった仕事面の事や、育児面（子供の預け先、病児保育、マタニティ白衣、母乳育児の継続、子供の教育相談など）と多岐に渡る相談があります。同じ問題や悩みを抱える女性医師が頼る場となることがふじのくに女性医師支援センターの目指すところですが、対象女性医師が気軽にしかも実質的に利用できるようなセンターを理想と想い描いています。今後は復職だけでなく、キャリア形成支援や女性管理職の増加、アカデミアポジションへの支援も検討しています。皆様からの要望もお待ちしていますので、是非お気軽にご利用下さい。

専任医師挨拶



谷口 千津子

浜松医科大学医学部附属病院

医師トータルサポートセンター 特任講師

仕事と家庭の両立を考えるワークライフバランスから多様な働き方を受け入れるダイバーシティ・インクルージョン。女性医師の働き方を考える取り組みの中で様々な言葉が取り入れられてきています。そのような議論が社会的に広がる中であっても、育児や家庭生活の主体が女性であるというジェンダーバイアスは女性医師として働く私たちの意識の中にもありますし、それに伴いキャリアから離れてもしまかたないと考える方も少なくありません。

男女が平等に家庭と仕事の両立ができ、キャリアを形成できる環境作りには、これから子育てや家庭生活との両立を目指す若い医師と共に、指導に当たる医師たちの意識の変革が必要となっている事を感じる一年となりました。子育てに積極的に参加する男性医師の中には女性医師と同様に家庭と仕事の両立について悩まれる方もおり、一方でそれを支援する上司、管理者の先生方も増えてきました。私たちの活動も女性だけにとどまらず男性医師の育児参加、家庭との両立を支援する必要性を感じています。「ふじのくに女性医師支援センター」は女性医師が家庭人としての生活を享受しつつ、医師としてのキャリアを形成し、地域で活躍できるよう県内医療機関と連携して支援する事、また県外から静岡県での就業を希望する医師への情報提供を行い、静岡県の医師不足を解消するための一つの役割を担う事を目的としていますが、更に男性医師の支援、女性医師も地域の指導者・管理者を目指せるような取り組みへと広げていきたいと考えています。

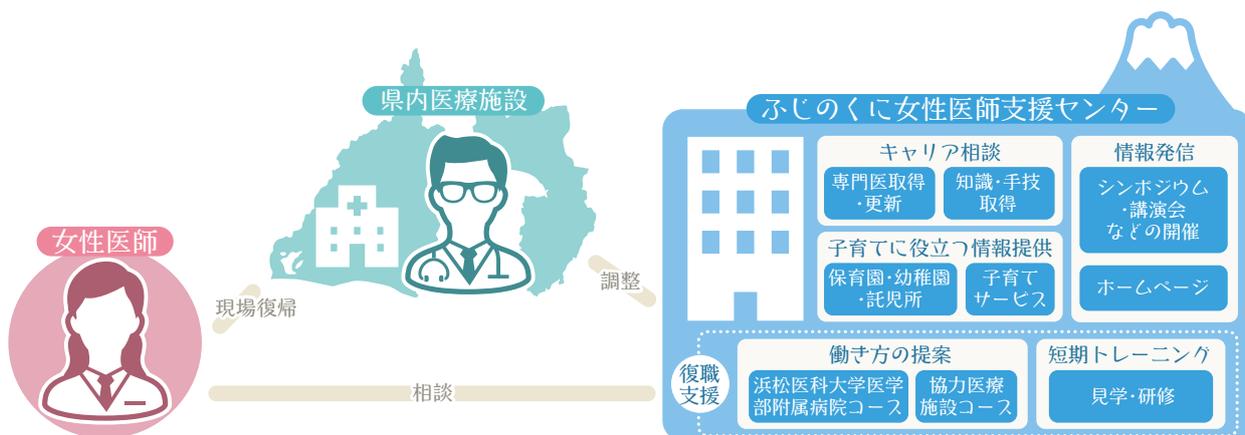
「ふじのくに女性医師支援センター」は県内の医療機関や浜松医科大学の各診療講座の先生方のご協力をいただいて8年目の活動となりました。全国に広がる医師支援の活動を吸収し、良い支援が行えるよう更なる目標を定め努力していきたいと思っております。

医師のキャリアを積んでいく経験はいろいろな形で、後に続く人たちも繋がっています。静岡県内の医師の皆さんに活用されることによりこの「ふじのくに女性医師支援センター」の活動も発展していくものと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

事業について

活動概要

県全体の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設置し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、求人病院とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による離職医師の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。



取り組み

キャリアサポート

①キャリアコンサルタント

出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

②復職支援・就業支援

それぞれの状況に合わせた、働き方の提案を行っています。浜松医科大学をはじめ、県内の医療施設と連携し、スムーズに復職・就業ができるようサポートします。

浜松医科大学女性医師支援枠（参照 11P）

復職支援協力医療施設（参照 13P）

③啓発活動（参照 22～25P）

静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。

これから医師を目指す人、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

①情報提供（子どもの預け先、育児サービス等）

②マタニティ白衣とマタニティパンツの無料レンタル

構成メンバー

ふじのくに女性医師支援センター

区 分	内 容
開 設 日	平成 29 年 4 月 3 日 (月)
開設場所	浜松医科大学医学部附属病院 (病院棟 5 階 503 号室)
組織体制	センター長 山内 克哉 (浜松医科大学医学部リハビリテーション医学講座教授) コーディネーター (専任医師) 谷口 千津子 (浜松医科大学医学部附属病院医師トータルサポートセンター特任講師) コーディネーター (専従事務員) 袴田 菜穂子 (浜松医科大学医学部附属病院女性医師トータルサポートセンター)
時 間	午前 9 時から午後 5 時まで

協議会

女性医師支援連絡協議会

区 分	内 容
目 的	センターの運営が、設置の趣旨に沿って効果的に行われるようにするため、女性医師支援連絡協議会を設置
協議委員	会長 奈良 雅文 静岡県健康福祉部参事 委員 中川 陽子 静岡県立静岡がんセンター 検診センター 医長 委員 鳥居 紘子 静岡県立総合病院 移行医療部 耳鼻咽喉科 医長 委員 佐藤 洋 静岡県医師会 理事 委員 金本 素子 静岡県病院協会 委員 山内 克哉 浜松医科大学医学部附属病院 医師トータルサポートセンター センター長 委員 谷口千津子 浜松医科大学医学部附属病院 医師トータルサポートセンター 特任講師

実績報告

1) 成果 (R7.3.10 現在)

①支援業務：就業・復職支援、キャリア形成支援

県内外在住の医師が静岡県内での就職・復職を求めた際、あるいはキャリア形成に関する相談に対し支援を行います。

(ア) 就業支援

県内外在住の医師が静岡県内での就職先を求めた際に、県内医療機関への就業に伴う支援を行います。

区分	人数
就業相談	34名
就業支援（上記相談支援の内）	15名（今年度2名、来年度13名）

(イ) 復職支援

県内医療機関に就業中の女性医師が産休・育休後復帰、あるいは休職中の女性医師が医療現場に復帰をする際の支援を行います。

浜松医科大学での復職を希望する医師に対しては、浜松医科大学各診療科講座と連携し、講座非常勤医師、あるいは「浜松医科大学女性医師支援枠」において個別の復職プログラムを作成・運用します。

区分	人数
復職相談	18名
復職支援（上記相談支援の内）	今年度復職5名、来年度復職予定13名

大学復職支援者一覧（平成29年～）

診療科	人数
内科	2名
産婦人科	8名
皮膚科	2名
精神科	2名
形成外科	1名
小児外科	1名
合計	16名（今年度+3名）

(ウ) キャリア形成支援

県内在住の女性医師のキャリア形成に関して、支援を行います。

大学各診療講座と連携し対応し、相談者である女性医師の希望に合わせて専門医資格・更新に関する情報提供や研修医療施設の情報提供及び紹介を行います。

区分	人数
キャリア形成相談	20名

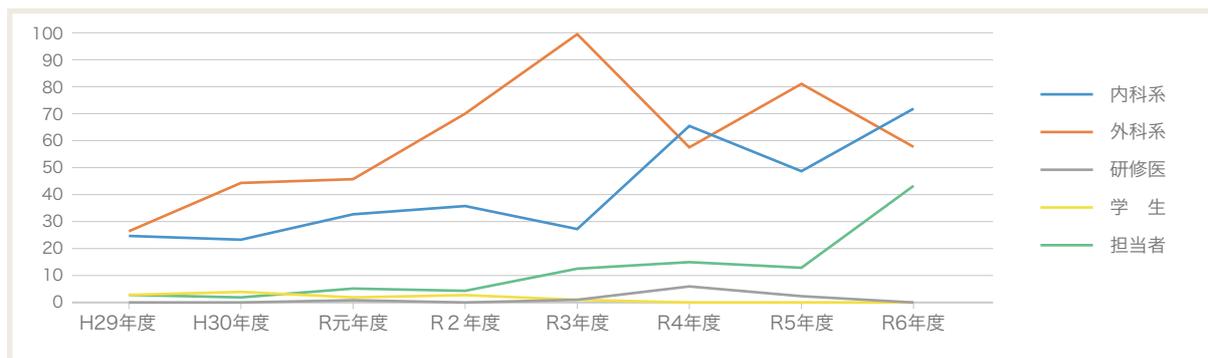
②相談事業について（項目件数）

区分	実績件数
就業相談	188件
キャリア形成相談	135件
その他相談	73件

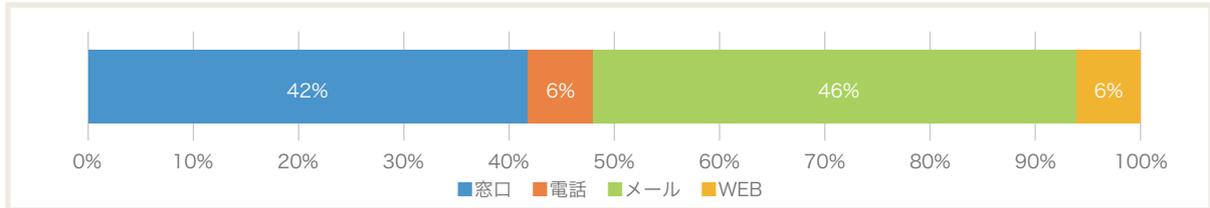
相談者数内訳：相談者数 51名（医師 37名、担当者等 14名）、相談回数 181回

区分	診療科	医師				学生	担当者等
		卒後5年未満	卒後5年～10年未満	卒後10年～15年未満	卒後15年以上		
医師	内科		2	5	1		
	精神科		1				
	小児科						
	外科		3			1	
	脳神経外科					1	
	整形外科						
	皮膚科		1	3		1	
	眼科						
	耳鼻咽喉科		1				
	産婦人科		2			6	
	放射線科					1	
	麻酔科蘇生科				1		
	形成外科		1		1		
	小児外科			2			
	リハビリテーション科		1		1	1	
	病理診断科						
	救急科						
	研修医						
	学生						
担当者等						14	
合計 51名		0	14	11	12	0	14

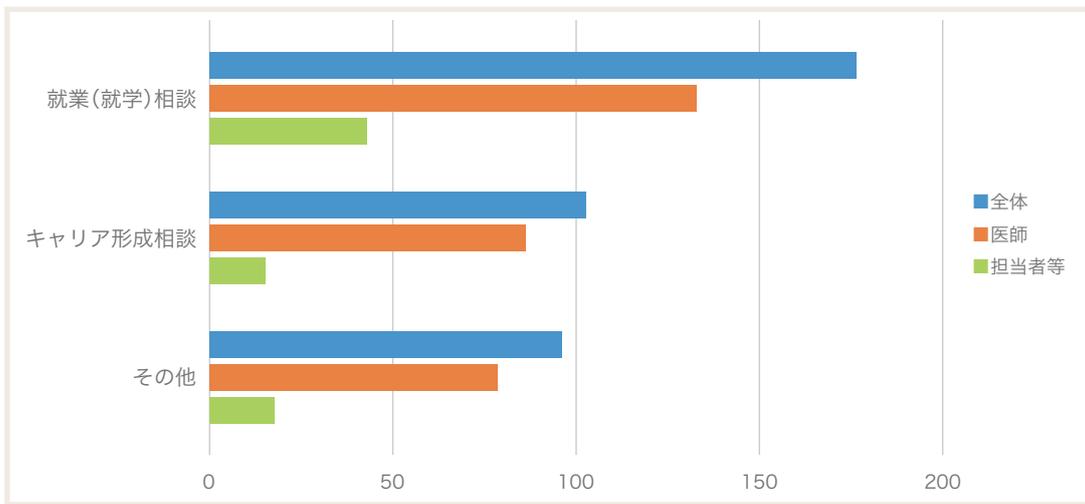
相談件数の推移



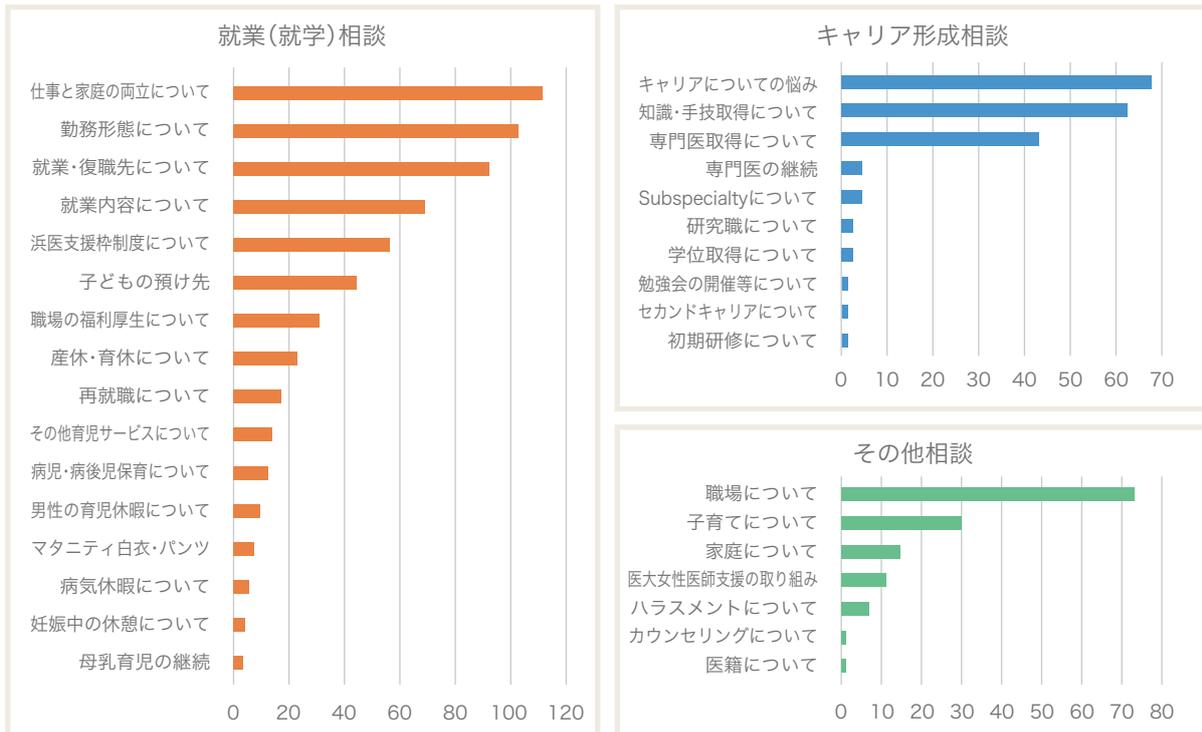
相談方法



相談項目別（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



相談内容内訳（※1回の相談において複数の項目が該当する場合あり）



令和6年度は例年同様、5年目から15年目の子育て世代の先生の相談が多くを占める一方で、幅広い年代で自身のキャリア形成のための相談も多くなりました。

またそのような女性医師を抱える上司からのご相談も増加し、このセンターの最初の目的である医師と医局・医療機関との橋渡しの役目を果たせたのではないかと感じております。

相談内容内訳をみると、就業相談においては「就業先」・「勤務形態」に関する相談が「子供の預け先」に関する相談がより高くなっているのがわかりました。いずれも相談件数自体は昨年度より増加していますが、自身の就業条件・勤務形態が、より重要な関心事となっているようです。この背景には地域の子育て環境の改善が影響しているのではないかと考えます。

キャリア相談では今後のキャリア形成について・自身の知識や習得に関しての相談が増加しており、自身のキャリア形成を大事に考えている方の増加によると考えられます。一方、職場・上司・同僚の問題をご相談される方も昨年度以上に増加しました。相談を受ける側として個々の事情に配慮した対応と更にきめ細かい情報提供を収集すべきと感じる一年でした。

③大学診療科、県内医療機関等への訪問等について

区分	浜松医科大学	医療機関
訪問数	15 診療科	11 施設

【浜松医科大学訪問診療科一覧】

腎臓内科	呼吸器内科	内分泌代謝内科
免疫・リウマチ内科	肝臓内科	第二外科
乳腺外科	放射線科	眼科
皮膚科	小児科	耳鼻咽喉科
産婦人科	リハビリテーション科	形成外科

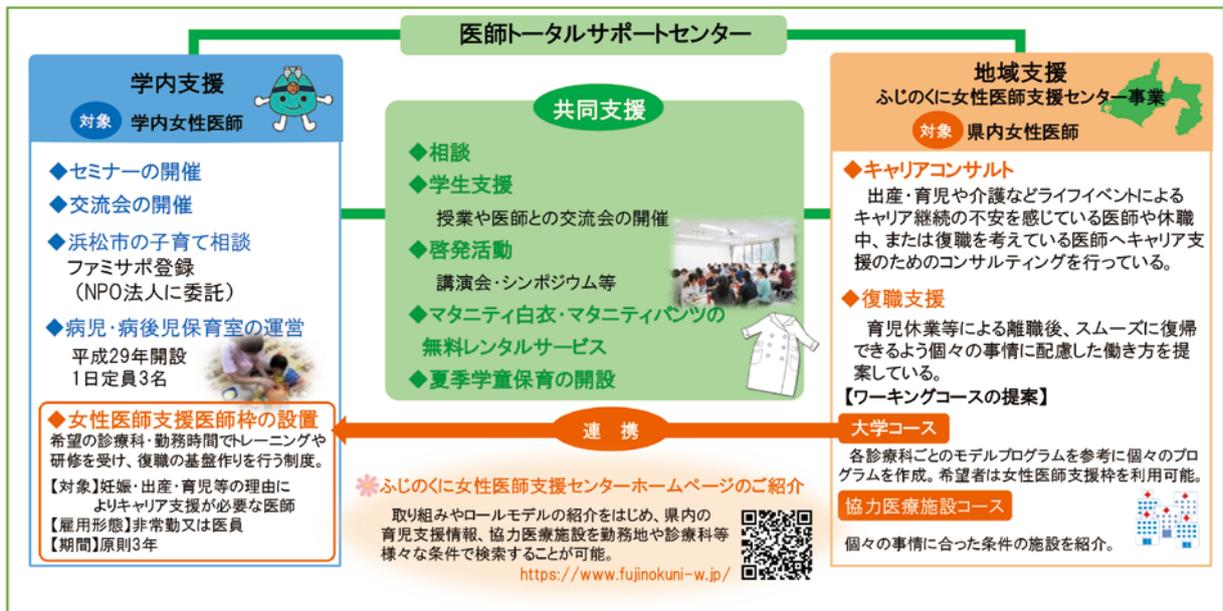
【県内訪問医療機関一覧】

伊東市民病院	静岡てんかんセンター
静岡がんセンター	静岡市立清水病院
静岡医療センター	中東遠総合医療センター
三島森田病院	聖隷三方原病院
川村病院	十全記念病院
新都市病院	

④浜松医科大学との連携

1) 大学との連携、組織図

ふじのくに女性医師支援センターは静岡県のご委託事業として浜松医科大学が中心となり取り組んでいます。学内支援では医師トータルサポートセンターが主体となり、学内医師を対象に病児・病後児保育室、夏季学童保育の運営等を行っています。地域支援ではふじのくに女性医師支援センターが主体となり、県内全域の女性医師を対象に各医療施設と連携して就業・キャリアに関する幅広い支援を行っています。



2) 各診療科との連携

現在、49プログラムが浜松医科大学医師トータルサポートセンターホームページより閲覧可能です。
 ※復職トレーニングプログラムとは出産や育児で一時的に臨床の第一線から離れざるを得なかった女性医師に対して、キャリア継続支援を目的として作られた就業計画書です。

浜松医科大学医師トータルサポートセンターホームページ

<https://www.hama-med.ac.jp/hos/cent-clin-fac/tods/index.html>

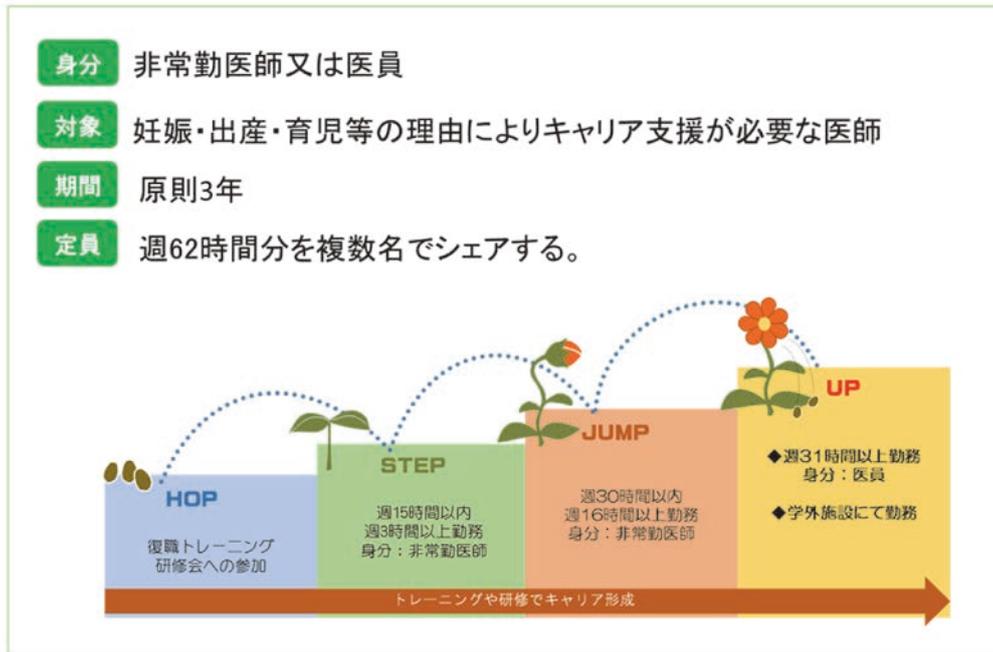


浜松医科大学連携講座・診療科一覧

診療科	プログラム数	診療科	プログラム数	診療科	プログラム数
第一内科	3	整形外科	2	リハビリテーション科	1
第二内科	6	皮膚科	1	形成外科	1
第三内科	6	泌尿器科	1	病理診断科	—
精神科	3	眼科	1	救急科	1
小児科	6	耳鼻咽喉科	1	小児外科	—
第一外科	5	産婦人科	3	口腔外科	—
第二外科	—	放射線科	4	地域家庭医療学	2
脳神経外科	1	麻酔科	1	プログラム合計	49

3) 浜松医科大学女性医師支援枠の活用

常勤として勤務が困難な女性医師の離職を避けるために、浜松医科大学医師トータルサポートセンターにて採用枠を設け、医員または非常勤医師として雇用します。支援枠を利用している期間は希望の診療科でトレーニングや研修を行い、非常勤の医師は常勤医として大学または県内医療機関で復職できるよう基盤作りを行います。この制度を活用しながら大学で復職希望の医師をサポートしています。



申込みの流れ



1. 利用希望者はエントリーシートに記入をし、勤務開始希望月の3ヶ月前までにセンターに申請をしてください。
2. エントリーシートに沿って現状や希望する勤務内容の確認を行います。
3. センター長と診療科担当医が申請の受理について検討します。
4. 採用となった場合は就業に関する具体的な内容について最終確認を行います。
5. 希望月より就業を開始します。

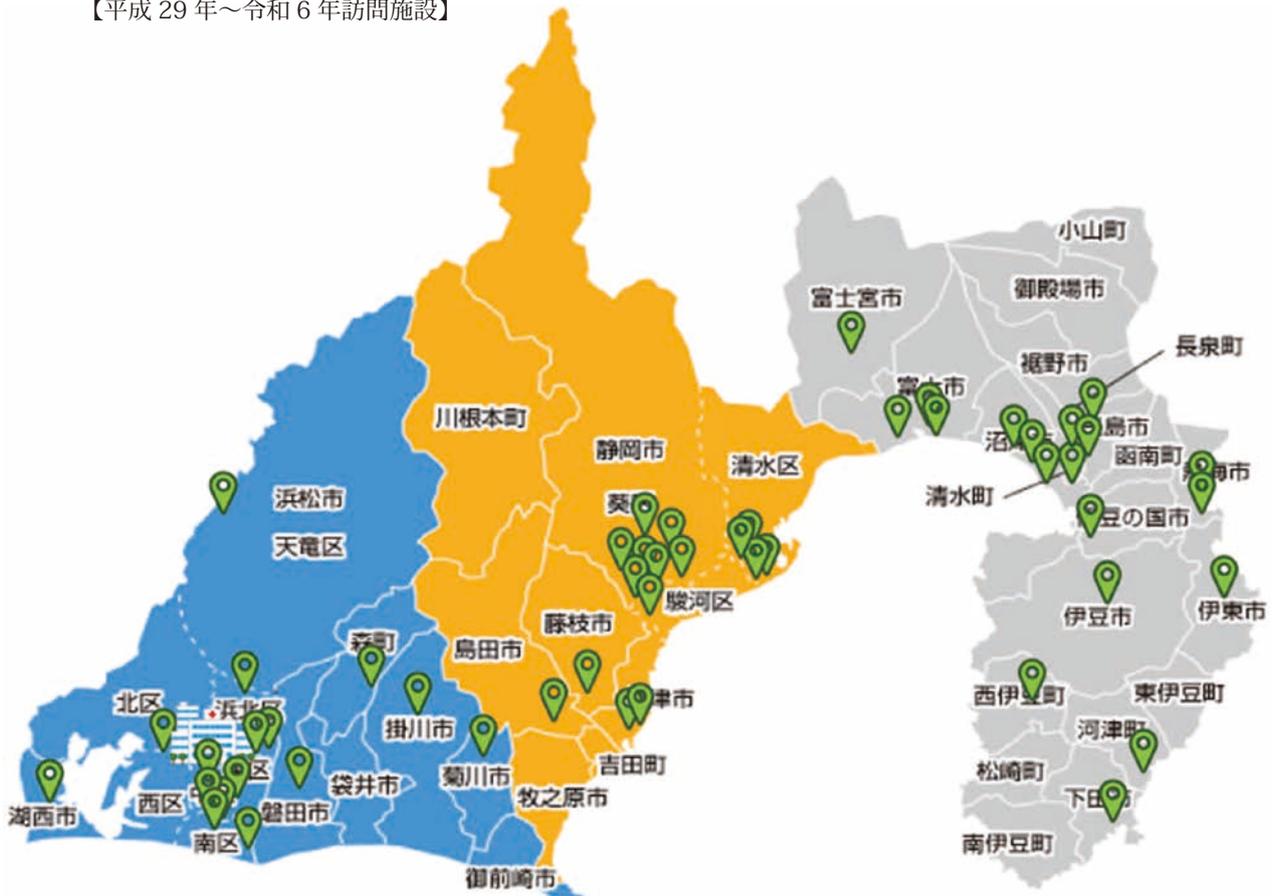
⑤ 県内医療機関との連携

1) 訪問・協力依頼

県内の公的医療機関等は6施設を訪問し、その他医療施設を5施設訪問しました、各病院長・担当医師・担当事務と面談し、下記について依頼しました。

- ① 事業への協力（復職支援協力医療施設としてホームページに登録）
- ② 院内の女性医師数等の情報提供
- ③ 院内での周知活動（チラシ・パンフレットの配布）
- ④ 担当者がいない施設については配置依頼

【平成29年～令和6年訪問施設】



2) 復職支援協力医療施設

復職支援協力医療施設とは下記の全ての条件を満たす施設です。

- ◆ 仕事と家庭を両立するための支援制度がある。
- ◆ 専門医取得や更新を目指した就業支援が可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターのホームページに復職支援協力医療施設として情報を登録していること。また、センターのバナーを施設のホームページに貼ることが可能である。
- ◆ ふじのくに女性医師支援センターの活動に協力が可能な施設であること。

ホームページでは結婚・育児等で休職中の女性医師や家族の転勤に伴い県外から転居してきた女性医師が離職することなく、スムーズに勤務継続ができるよう復職支援協力施設の検索や閲覧できます。

【ホームページ登録施設一覧】

施設名	施設名
下田メディカルセンター	聖隷沼津病院
伊東市民病院	三島共立病院
国立病院機構静岡医療センター	三島森田病院
裾野赤十字病院	池田病院
伊豆赤十字病院	富士整形外科病院
三島総合病院	医療法人清仁会日本平病院
NTT 東日本伊豆病院	医療法人社団正心会岡本石井病院
富士宮市立病院	静岡徳洲会病院
富士市立中央病院	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター
静岡県立こころの医療センター	駿河西病院
静岡県立こども病院	掛川北病院
静岡市立清水病院	掛川東病院・介護老人保健施設 桔梗の丘
静岡赤十字病院	十全記念病院
静岡済生会総合病院	浜北さくら台病院
JA 静岡厚生連静岡厚生病院	すずかけセントラル病院
JA 静岡厚生連清水厚生病院	平安の森記念病院
島田市立総合医療センター	浜名病院
藤枝市立総合病院	浜松南病院
磐田市立総合病院	医療法人社団明徳会新都市病院
中東遠総合医療センター	社会福祉法人聖隷福祉事業団聖隷予防健診センター
菊川市立総合病院	JCHO清水さくら病院(旧桜ヶ丘病院)
浜松ろうさい病院	医療法人秀峰会川村病院
国立病院機構天竜病院	木村産科・婦人科
浜松医療センター	坂の上ファミリークリニック
市立湖西病院	浜松佐藤町診療所
浜松赤十字病院	やまなしクリニック
JA 静岡厚生連遠州病院	クリニックさくら
総合病院聖隷浜松病院	森本耳鼻咽喉科
総合病院聖隷三方原病院	医療法人社団五月会清水内科医院

【復職支援協力医療施設一覧】(R7.2.1 現在)

◆東部 27 施設

施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
下田メディカルセンター	○	○	○	順天堂大学医学部附属静岡病院	○	○	—
西伊豆健育会病院	—	○	—	富士宮市立病院	○	○	○
伊豆今井浜病院	○	—	—	共立蒲原総合病院	○	○	—
伊東市民病院	○	○	○	富士市立中央病院	○	○	○
国際医療福祉大学熱海病院	○	○	—	鷹岡病院	—	○	—
国立病院機構静岡医療センター	○	○	○	熱海所記念病院	○	○	—
静岡県立静岡がんセンター	○	○	—	聖隷沼津病院	○	○	○
沼津市立病院	○	○	—	三島共立病院	—	○	○
裾野赤十字病院	○	○	○	池田病院	—	○	○
伊豆赤十字病院	○	○	○	富士整形外科病院	○	○	—
伊豆医療福祉センター	—	○	—	三島森田病院	○	○	○
三島総合病院	—	○	○	川村病院	○	—	○
沼津中央病院	○	○	—	清水内科医院	○	—	○
NTT 東日本伊豆病院	—	○	○				

◆中部 21 施設

施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
静岡県立こころの医療センター	○	○	○	焼津市立総合病院	—	○	—
静岡県立こども病院	○	○	○	藤枝市立総合病院	○	○	○
静岡県立総合病院	○	○	—	日本平病院	—	○	○
静岡市立静岡病院	○	○	—	岡本石井病院	—	○	○
静岡市立清水病院	○	○	○	静岡徳洲会病院	—	○	○
静岡赤十字病院	○	○	○	国立病院機構静岡てんかん・神経医療センター	○	—	○
静岡済生会総合病院	○	○	○	甲賀病院	○	○	○
JA静岡厚生連静岡厚生病院	○	○	○	駿河西病院	—	○	○
JA静岡厚生連清水厚生病院	○	○	○	JCHO清水さくら病院(旧桜ヶ丘病院)	○	○	○
清水駿府病院	○	○	—	静岡県結核予防会	—	○	○
島田市立総合医療センター	—	○	○				

◆西部 31 施設

施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録	施設名	担当医師	その他担当者	ホームページ登録
磐田市立総合病院	○	○	○	掛川東病院・介護老人保健施設 桔梗の丘	—	○	○
中東遠総合医療センター	○	○	○	浜名病院	—	○	○
聖隷袋井市民病院	—	○	—	浜松南病院	—	○	○
市立御前崎総合病院	—	○	—	十全記念病院	—	○	○
菊川市立総合病院	○	○	○	浜北さくら台病院	—	○	○
公立森町病院	—	○	—	すずかけセントラル病院	—	○	○
浜松ろうさい病院	○	○	○	平安の森記念病院	—	○	○
国立病院機構天竜病院	○	—	○	新都市病院	○	○	○
浜松医療センター	○	○	○	聖隷予防検診センター	—	○	○
国民健康保険佐久間病院	○	○	—	木村産科・婦人科	○	—	○
市立湖西病院	—	○	○	坂の上ファミリークリニック	—	○	○
浜松赤十字病院	○	○	○	浜松佐藤町診療所	○	○	○
JA 静岡厚生連遠州病院	○	○	○	やまなしクリニック	○	—	○
総合病院聖隷浜松病院	○	○	○	クリニックさくら	○	—	○
総合病院聖隷三方原病院	○	○	○	森本耳鼻咽喉科	○	—	○
掛川北病院	—	○	○				

登録がお済でない医療施設はふじのくに支援センターホームページ TOP → 復職支援情報 → 復職支援協力医療施設登録より簡単に登録が可能です。是非ご協力をお願いします。

URL: <https://www.fujinokuni-w.jp/>

⑥令和6年度静岡県医師数アンケート報告

- ◆目的 静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することにより、県内女性医師支援活動の現状把握と今後の活動の方向性を検討する
- ◆調査期間 令和6年10月～12月
- ◆対象 静岡県内医療機関（病院）
- ◆回答施設数 80施設（回答率46.8%）

Q1-1 2023年4月1日時点での女性医師在籍数

区分	全体	女性医師
常勤医師	3555	717
非常勤医師	1254	227

Q1-2 2022年4月～2023年3月までの期間に県外から就業した女性医師数 *研修医は含まない

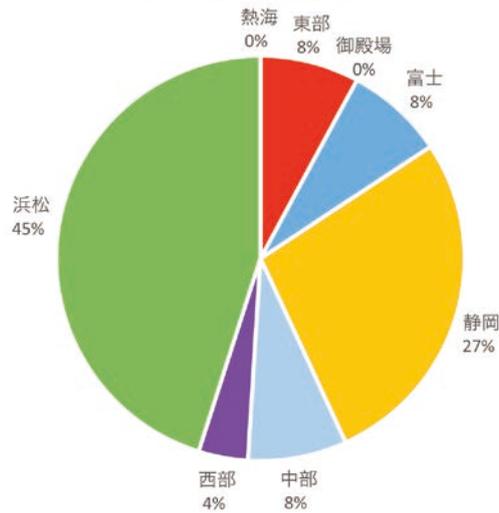
	東部	中部	西部	合計
全体	25	37	22	84
公的病院	13	35	22	70

Q2 管理職に就いている女性医師数（人）

	管理者	副院長	部長・科長等
全体	8	5	100
公的病院	2	3	92

Q3 2023年4月～2024年3月までの期間に産休、育休を取得した医師数、また復帰した医師数

◆産前産後休暇取得者数 51名(常勤女性医師の7.1%)



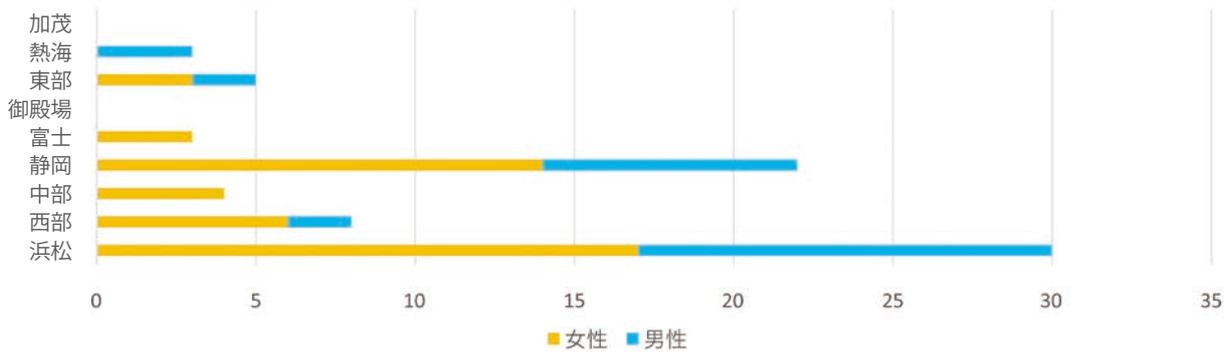
◆育児休暇取得者数

【男性医師】

28人(昨年度男性取得者は17名)

【女性医師】

47人(昨年度女性取得者は47名)

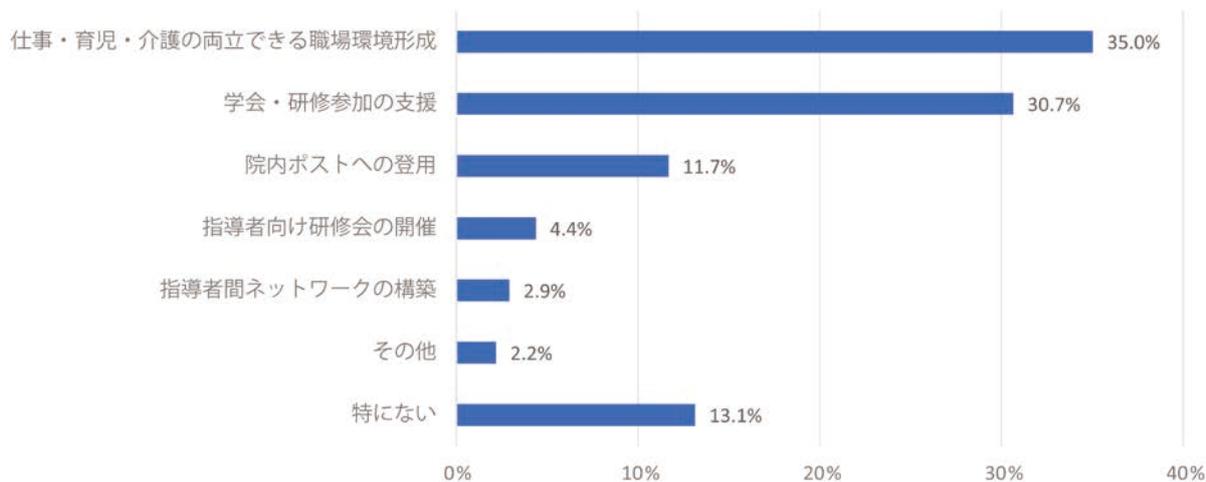


◆介護休暇取得者

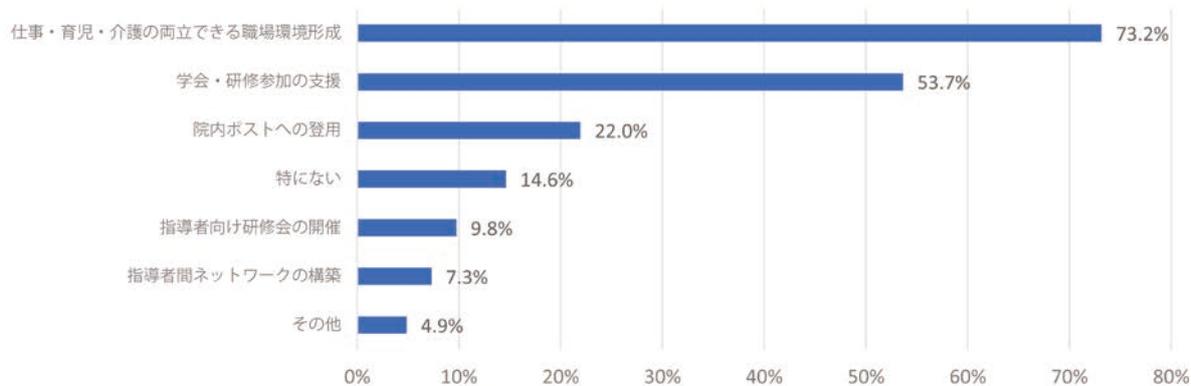
	女性	男性
取得者数	2	0

Q4 女性医師のキャリア維持、指導者や管理職として育成していくために貴院で取り組まれている事に✓を付けてください。

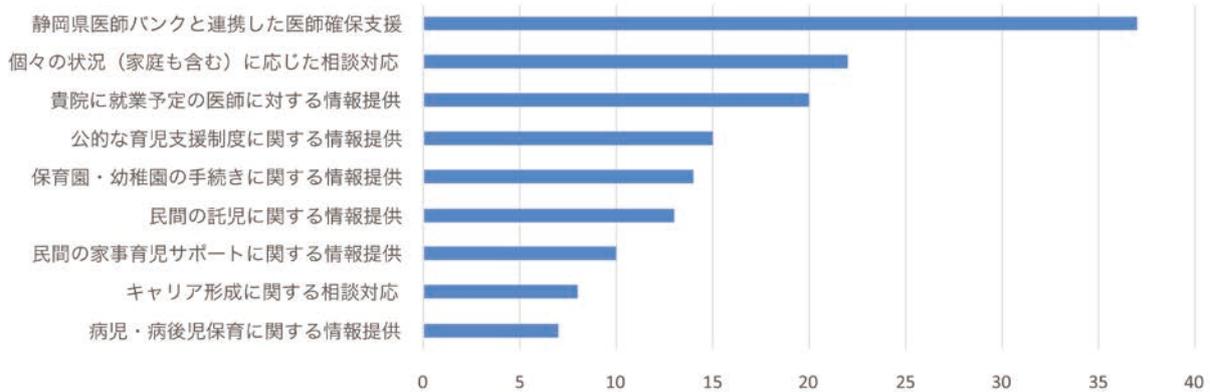
全体



全体の内公的医療機関等



Q5 ふじのくに女性医師支援センターに希望する支援に✓を付けてください。



令和6年度は過去3年に引き続き、静岡県内の医療機関に所属する女性医師の就業実態を調査することを目的に静岡県病院協会のご協力の元、県内医療機関に向けてアンケート調査を行い、80施設（回答率47.5%）からご回答をいただきました。1年間に県外から入職した女性医師は84人（研修医を含まない）、地域別では中部に多い傾向が見られ、連携している大学の移動、県外から医師が集まる公的医療機関の数の影響がある為と考えられます。

産前産後休暇は常勤女性医師の7.1%が産休を、6.5%が育児休暇を取得しており、産休取得者はほとんどが育休まで取得できている者と考えます。

男性育児休暇取得者は年を追うごとに増加し令和5年度は28名が取得しています。育休取得に関してはどのくらいの期間取得されているのか、また男性に育児休暇を取得させる取り組みや工夫など各医療機関で行われているものについて、調査をしていきたいと考えています。産休・育休取得者の地域差は大きく、東部で特に減少している事が明らかになりました。医師に限らず東部・伊豆地域の分娩数は著しく減少しており、その原因のひとつに分娩施設の減少や子育て環境の地域差も影響があるかと考えます。女性が医師として、家庭人として両立を図るためには働きやすい環境整備と共にその地域が子育てをしやすい環境であることも必要であると感じました。県全域にわたって仕事と家庭の両立、キャリア形成支援を行うために、医療機関の情報提供だけでなく、生活する地域の情報提供や個々の事例に寄り添った支援の在り方を考える必要があります。

医療機関における女性医師のキャリア支援については家庭との両立支援、学会や研究会への参加支援が5～7割程度なされていますが、上位管理者に向けてのサポートはまだ少ないようです。このアンケート結果を受けて次年度は女性の管理職・指導者育成の取り組みについて県内医療機関への情報収集と現場の医師の皆さんへの周知活動を行う必要があると感じました。

アンケートにご協力いただきました医療機関の皆様、病院協会の皆様にはご協力に感謝申し上げます。

アンケート回答施設一覧

静岡県内 80 施設の医療機関に回答頂きました。ご協力頂きありがとうございました。

※施設名は回答時の表記で掲載しています。

◆加茂保健所

下田メディカルセンター	公益社団法人地域医療振興協会伊豆今井浜病院
医療法人社団辰五会ふれあい南伊豆ホスピタル	

◆熱海保健所

伊東市民病院	医療法人社団陽光会南熱海病院
国際医療福祉大学熱海病院	

◆東部保健所

独立行政法人地域医療機能推進機構三島総合病院	独立行政法人国立病院機構静岡医療センター
沼津市立病院	裾野赤十字病院
伊豆赤十字病院	公益財団法人復康会沼津中央病院
公益財団法人復康会沼津リハビリテーション病院	一般財団法人芙蓉協会聖隷沼津病院
ふれあい沼津ホスピタル	医療法人社団形外会三島森田病院
医療法人社団志仁会三島中央病院	医療法人社団静岡健生会三島共立病院
伊豆韮山温泉病院	医療法人社団慈広会記念病院
農協共済中伊豆リハビリテーションセンター	N T T 東日本伊豆病院

◆御殿場保健所

国立駿河療養所	医療法人社団駿栄会御殿場石川病院
---------	------------------

◆富士保健所

富士宮市立病院	共立蒲原総合病院
富士市立中央病院	公益財団法人復康会鷹岡病院
一般財団法人富士心身リハビリテーション研究所附属病院	一般財団法人富士脳障害研究所附属病院
一般財団法人恵愛会聖隷富士病院	医療法人社団鵬友会フジヤマ病院
南富士病院	医療法人財団新六会大富士病院
医療法人財団百葉の会湖山リハビリテーション病院	医療法人社団喜生会新富士病院
医療法人社団秀峰会川村病院	

◆静岡保健所

独立行政法人地域医療機能推進機構桜ヶ丘病院	静岡県立こころの医療センター
静岡県立こども病院	静岡県立総合病院
静岡市立静岡病院	静岡市立清水病院
静岡赤十字病院	静岡済生会総合病院
静岡瀬名病院	医療法人社団宝徳会小鹿病院
静岡徳洲会病院	白萩病院
清水駿府病院	

◆中部保健所

島田市総合医療センター	焼津市立総合病院
藤枝市立総合病院	医療法人社団駿甲会コミュニティーホスピタル甲賀病院
医療法人社団平成会藤枝平成記念病院	医療法人社団凜和会藤枝駿府病院

◆西部保健所

磐田市立総合病院	掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター
袋井市立聖隷袋井市民病院	市立御前崎総合病院
菊川市立総合病院	公立森町病院
医療法人弘遠会すずかけヘルスケアホスピタル	

◆浜松保健所

独立行政法人労働者健康福祉機構浜松ろうさい病院	浜松医科大学医学部附属病院
独立行政法人国立病院機構天竜病院	浜松医療センター
浜松市リハビリテーション病院	浜松赤十字病院
医療法人社団松愛会松田病院	医療法人社団種光会朝山病院
医療法人社団三誠会北斗わかば病院	医療法人社団誠心会浜北さくら台病院
医療法人社団竹内会精神科・神経科浜北病院	十全記念病院
遠江病院	医療法人弘遠会天竜すずかけ病院
社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷浜松病院	社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院
常葉リハビリテーション病院	



2) 活動報告

①啓発活動

医学生・医師・管理者の先生方が情報共有を目的に静岡県医師会・浜松医科大学と共催で講演会を開催しました。

◀ 学生・研修医・医師交流会 はまキャリ 2024 ▶

会 期	令和6年7月23日(金)
開催方法	現地開催
参加者	学生12名、医師15名

【概要】

大学での講義や病院での実習で学生と医師が顔を合わすことがあっても、自分の考えている将来について相談したり、アドバイスをもらったりする機会は無いことがほとんど。そんな学生の皆さんに、自分のキャリアを考え、実際に医師として、家庭人として両立されている先生方に気軽に質問できる機会を提供する学生・医師交流会「はまキャリ」を夏休み直前の大学で開催しました。

女性の参加者が多いのは常ですが、男子学生も参加してくださいました。ご協力いただいた医師の皆さんは内科・外科・放射線科・小児科・整形外科・眼科・リハビリ科など様々。学生の皆さん、最初こそ緊張(?)、遠慮(?)していましたが、時間がたつにつれ積極的に質問をして話が途切れることはありませんでした。同じテーブルに着いた医師同士でも診療科・年代が違くと医師同士で質問し合うことも。

学生の皆さんの一番の疑問はやはり「診療科を選ぶポイントは?」「結婚・出産はいつごろにするのが良いの?」「仕事と家庭の両立は?」など。答えてくださる医師の皆さんのポジティブな意見に勇気づけられたのではないかと思います。



学生・医師交流会
はまキャリ 2024

仕事と家庭の両立は大変?!
診療科を選ぶポイントは?
専門医を取ってからどう働く?

自分のキャリアプランを
デザインしてみませんか?
先輩ドクターがお答えします!

日時 7月23日(火)
15:00~16:15

開催方法 浜松医科大学医学部附属病院
第一集会室

対象 医学生・研修医・医師
お一人でも友達同士でもパートナーと一緒にでも
大歓迎★
男性医師も参加します!

申込 締切:7月18日(木)
申込先:右記の二次元コードから
申込みください。
【問合せ】dr-info@hama-med.ac.jp

共催:静岡県医師会
ふじのくに女性医師支援センター
浜松医科大学医学部附属病院 医師トータルサポートセンター・学後教育センター

◀ ロールモデル講演会 ▶

会 期	令和6年9月25日(金)
開催方法	ハイブリッド
参加者	オンライン 43名 会場 37名

【概要】

毎年開催しているロールモデル講演会では学生や若い先生方がご自身のキャリアを考えていく中で感じる疑問「他の人はどうしているのだろう?」にお応えする気持ちで開催しています。

今年は、ご自身の専門分野を突き進んできた方とは異なり、色々な経験を経てきた先生方にご講演いただきました。隠れテーマは「紆余曲折」。

同じ医療機関、同じ診療科の医師であっても皆さん自分の仕事にかかわる考え方、働き方は色々ですが、みんなが進んでいるのと少し違う方向に進むとき、きっと不安や迷いもあるはず。そんなとき、何をどうな風に考えてその道を選択してきたのか、3名の先生のご経験をお話ししていただきました。

検査技師のキャリアから小児科医師となり、夫婦で仕事と家庭の両立をしている石垣先生。産婦人科医師として地域で診療した後、大学院へ進学。院生時代に出産・ご主人の研修に同行して海外生活の後復学し、学位取得と生殖医療への道を進んだ松本先生。血液内科から臨床の強みを生かした臨床検査医へ転身、その後大学院で研究も始めた朝比奈先生。

結婚・妊娠・子育て・転勤などのライフイベントで自分の想像したキャリアを進めなくなる、なんて事は珍しい話ではないのですが、3人の先生のようにいつでも、どこでも「人との出会いを大切に」「まあ、やってみるか」という気持ちを持ち続けたいと思う講演でした。

ハイブリッド開催 (WEB or 会場)

医師が働き続けるために
～我が家はこんな感じですよ2024～

ロールモデル講演会

石垣 英俊 先生 (小児科、生活に役立っています。)

松本 穂子 先生 (産婦人科、落ち込むこともあるけれど、私の仕事が好きです。)

朝比奈 彩 先生 (血液内科×臨床検査×遺伝×公衆衛生、一私)

家庭や仕事やキャリア…
成功談や失敗談
家庭と仕事の両立で苦労したことや
乗り越えるコツ等 聞いてみませんか?

9/25 (水)
17:30~19:00
浜松医科大学医学部附属病院
多目的ホール

申込方法
メール申込み
①氏名②所属③職種または学科④メールアドレス⑤電話番号⑥参加方法
(会場:オンライン)をご明記の上、右記のアドレス欄にお送りください。

申込締切
9/20 (金)

WEB申込み
右の二次元コードを読み込んで頂き、申込フォームに
必要事項をご入力ください。

お問い合わせ
浜松医科大学医学部附属病院内
ふじのくに女性医師支援センター
053-435-2380
dr-info@hama-med.ac.jp
メール申込みの方はこちらのアドレスにお送りください

※参加費無料! 学生・医師・卒の他
どなたでも参加いただけます!
会場参加の方は持ち帰り券をご用意しています

共催 静岡県医師会・ふじのくに女性医師支援センター・浜松医科大学医学部附属病院 (中核教育センター・医師トータルサポートセンター)



◀ キャリア支援シンポジウム～地域医療の未来を考える～ ▶

会 期	令和7年1月26日(金)
開催方法	ハイブリッド
参加者	オンライン 33名 会場 12名

【概要】

浜松医大・静岡県医師会との共催で開催されたキャリア支援シンポジウムは今年で8回目。今回に引き続き「地域医療」がテーマでした。

地域に求められる医師、という視点から静岡県の家庭医療を束ねていらっしゃる浜松医大地域家庭医療学講座の井上真智子先生と女性のキャリアという観点からも静岡県随一というJCHO 桜が丘病院の森典子先生にお話していただきました。

地域の中で多角的に住民の健康を考えていく家庭医療と、そこに携わる医師を育てている井上先生。地域医療機能推進機構の医療機関の中で健診、訪問看護から救急までを地域医療を支えている森先生。森先生は他の医療機関との連携でどのように地域医療を支えているかという具体例とご自身のキャリア形成

の中で考えたこと、悩まれた事など率直にお話ししていただき、加えて今まで関わってきた女性医師の皆さんが今どのようにキャリアを継続しているか、ということもご紹介していただきました。

医師少数県である静岡県のこれからの医療についてお二人の違う視点から考えることができ、座談会は思いのほか質問が飛び交い会場は盛り上がりましたが、女性の先生たちの参加は少なく、またローカルに話す場が作れればと思うのでした。

ご参加の先生方、ありがとうございました！

静岡県の医療現場の多様性と次世代の育成を支えるため、女性医師や若手医師が共に成長し、地域医療を支えるための企画です。静岡県の地域医療を支えるための一歩として是非ご参加ください。

地域医療の未来を考える

会場 or オンライン
ハイブリッド開催

2025年 18:00-20:00
1月31日(金)
会場：静岡県医師会館 (静岡市葵区廣匠)

対象 管理者・医師・学生・事務・その他
どなたでもご参加いただけます

申込方法 申込締切 令和7年1月27日(月)

WEB申込 右の二次元コードを読み込み、申込フォームにご入力ください。

メール申込 ①氏名 ②所属 ③職種 ④メールアドレス ⑤電話番号 ⑥参加方法(会場orオンライン) の日本医師会生涯教育制度の単位取得をご希望される方は電話番号をご明記の上、下記のアドレス宛にお送りください。

対象 浜松医科大学医学部 地域家庭医療学講座 (共催) 静岡県医師会 ふじのくに女性医師支援センター 独立行政法人 地域医療機能推進機構 桜が丘病院 院長 森 典子 先生

会場参加の方は 日本医師会生涯教育 1.5単位(0.75)の 単位取得ができます。



◀ 学生講義 ▶

ライフイベントやキャリア形成について、学生のうちから考えられるよう講義の中でロールモデルの紹介や医師を取り巻く現状等を伝えています。今年度は3回講義を行いました。

日 程	令和6年5月2日（金）
対 象	医学生2年生 100名
講 師	谷口 千津子 「医学生のためのキャリア形成入門」
日 程	令和6年6月21日（金）
対 象	医学生6年生 110名
講 師	谷口 千津子 「ライフイベントをプラスに変える！～働く側・支える側 それぞれのメリット」
日 程	令和6年11月20日（水）
対 象	医学生4年生 96名
講 師	安田 日出夫（女性医師支援センター 副センター長） 「女性医師支援」の本質は何か 藤澤 泰子（女性医師支援センター 運営委員） 「女性医師支援～ダイバーシティの視点から」

【アンケートより】

- ・医師のキャリア形成について、先生の経験談も含めてより詳しく知ることができた。
女性のキャリア形成の話があったが、女性のキャリアも自分の奥さんないしは同僚がそのような状況になることもあるのかと思い、とても考えさせられる授業だった。
- ・女性のキャリアとして、家庭や仕事とのワークライフバランスを考えると、出産後のジレンマがあることを学んだ。また、女性に妊娠・出産が付きものだとして、周りから支えてもらう代わりに何ができるのか考えなければならぬと感じた。また、やりがいがあると思う診療科に進むのも大切だと思った。
- ・今日の授業を通して、自分が将来どうしたいかを改めて考えることが出来た。家事育児は女性が優先的にやるべきだという考えは、私たちの世代でも少なくない人が持っているかと思う。私は相手のために将来キャリアを完全に犠牲にはしたくないため、トラブルがないようにするにはしっかりと相手と話し合っておく必要があるのだと感じた。



②相談窓口の設置

出産・育児などライフイベントによる医師としてのキャリア継続に不安をお持ちの方や、休職中の方、復職を考えている方へ就業・キャリアに関する相談窓口を開設しています。

対応者	コーディネーター2名（専任医師1名、専従事務員1名）
開設時間	平日9時から17時まで

③センターの活用

センターでは畳スペース・ソファスペース・テーブルスペースを自由にご利用いただくことが出来ます。カーテンで仕切り体調不良時の休憩や搾乳として利用したり、一時的な保育スペースとして活用いただいております。大学に所属する医師だけでなく、これから復職を考えている方や他の病院に勤務されている方等、どなたでもご利用いただけます。



④マタニティ白衣・パンツの無料貸出し

ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学医師トータルサポートセンターの共同事業です。

産前休暇を取得するまで仕事のモチベーションを保ちながら、快適に業務に携わることが出来るようサポートしています。

利用者	大学
医師	2名

マタニティ白衣・パンツのご紹介 嬉しい工夫がいっぱいあります♡

マタニティ白衣の特色



規格（標準サイズとの比較）

サイズ	着丈	バスト	肩幅	袖丈
S	95	97	38	53
マタニティS	90	112	38	51
M	100	101	39	55
マタニティM	95	116	39	51

※標準サイズは浜松医科大学の白衣サイズを掲載しています。

マタニティパンツの特色

規格

サイズ	ウエスト	ヒップ	太もも	股下
S	78	90	29	70
M	86	100	31	72
L	94	112	34	74



2枚1セットでレンタルいたします。
詳しくはホームページをご覧ください！

マタニティ白衣・パンツ
ご案内ページ➡



広報活動・情報発信

①ホームページ・SNSでの周知について

静岡県内で活動する女性医師の就業や子育てに関する情報とふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載するホームページを平成30年2月に開設しました。医師としてのキャリア形成や仕事と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関情報や地域の子育て支援情報をインターネット上で容易に収集できることで県内での就業復帰を後押しすることを目的としています。

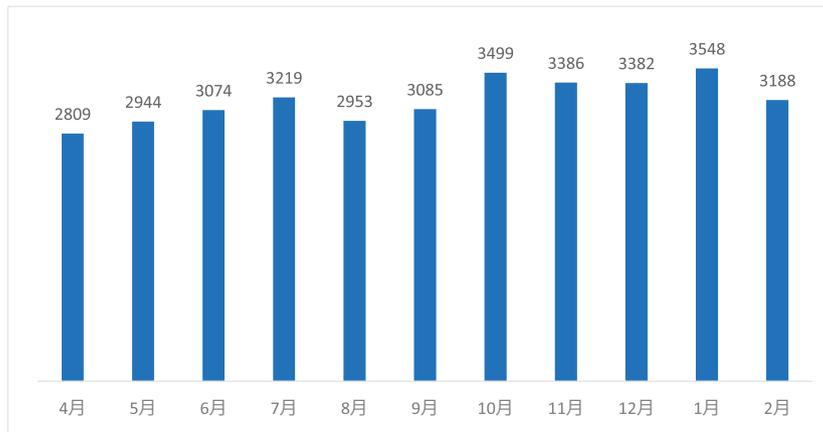


ふじのくに女性医師支援センターホームページ
<https://www.fujinokuni-w.jp/>

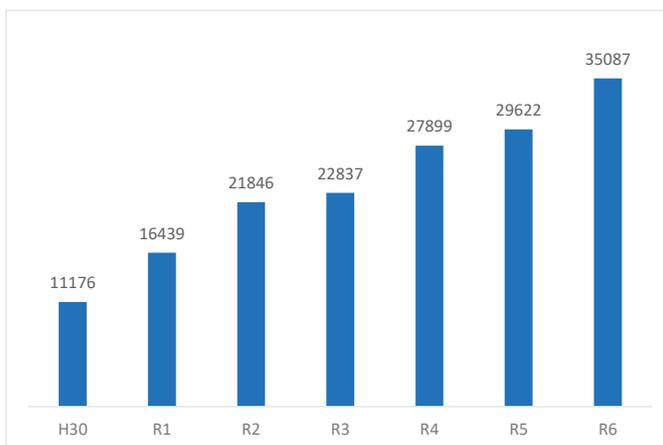


サイト分析結果

令和6年度月別



平成30年度から
令和6年度年別



※アクセス数は Webalizer ソフトを使用し、30分以内の同一 IP を除いた訪問者数をカウントしています。

◇ SNS での情報発信を強化

ホームページでご紹介しているコンテンツのご案内やイベント情報等を発信しています。

【Facebook】

ホームページでご紹介しているコンテンツのご案内やイベント情報等を発信しています。

フォロワー 145 人



【Instagram】

フォロワー 493 人



②パンフレット配布

広く周知をするため、パンフレットを作成し県内医療施設と浜松医科大学各診療科及び卒業式・入学式、各イベントにて配布しています。

ホームページのご紹介

静岡県内で活動する女性医師の紹介や子育てに関する情報、ふじのくに女性医師支援センターの取組を掲載しています。
医師としてのキャリア形成や仕事と家庭の両立を希望する女性医師が医療機関や地域の子育て支援情報をインターネット上で詳細に収集できることで県内での就業促進を期待します。

人気のコンテンツ

- ロールモデル紹介
 - みんなの備前パトーン
 - ONとOFFどうしてる?
 - 私のやりがい
- 医療施設紹介
 - 望み医療施設を取材したインタビューを掲載！
 - 病院の自費もご紹介しています。

SNSでも情報発信中！

オンライン・メールでもご相談できます

ふじのくに女性医師支援センター
電話 ☎ 053-438-2380 Fax ☎ 053-438-2381
URL : <https://www.fujinokuni-w.jp>

静岡県で働く女性医師の皆さんを応援します

ご案内

ふじのくに女性医師支援センター

センター長挨拶

医師会会長の1人が女性となり、医師の悩みに応じては、結婚、出産、育児の難題を必ず解決できる。医師は得意なことがある。子育て中の女性医師は長期休職することも多く、復帰してもパートタイムとして働くことが多いのが現状です。特に休職期間や復帰後の給与は、出産、育児により減額を余る女性医師が多数いらっしゃいます。女性医師支援センターは、その支援を継続し、復帰を希望する女性医師が復帰できるまで就業促進を継続して利用していただくための組織です。

一方で静岡県内の医師不足は深刻であり、女性医師支援は、医師不足の解消という目的も持ちます。浜松医科大学では『静岡県産科婦人科医局支援プログラム』を産科医学部の事業として平成21年～25年にかけて行いました。高い女性医師就業促進意識を有する静岡県産科婦人科医局の支援事業として平成25年から27年まで行われ、さらに現在、浜松医科大学女性医師支援センターは、静岡県内の女性医師支援センターとして機能しています。産後後の女性医師が復帰できることは、静岡県内の医療にとっても重要な課題です。産後後早期の就業促進を支援させ、産後後早期の就業促進を必要とします。

復帰によって、復帰の準備は大きなステップとなります。県内のどの病院がどのような条件で女性医師の就業を求めているか、また勤務形態は勤務されているかとはどう違うかという情報を収集し発信していきます。子育て支援についても、認可保育園などの情報収集と発信、センター内での育児のためのスペースの提供、病児病後児保育の提供など重要な役割を担っています。また県内内外において、情報交換や体験談に基づく相談などを企画していただき、その情報も発信しています。同じ課題や悩みを抱える女性医師が悩みを共有し、頼る場となります。解決できる場所になることが女性医師支援センターの目的となるので、是非お気軽にご利用下さい。

山内 克彦
浜松医科大学産科婦人科医局長
ラハビデーション室 病後後期

専任医師挨拶

平成29年4月より静岡県では全県の女性医師に対する就業支援・キャリア形成支援を目的として、浜松医科大学に委託し『ふじのくに女性医師支援センター』を開設いたしました。現在日常業務に携わっている医師のうち、20～30歳の女性医師の割合は特に増加がみられています。これらの女性医師の多くが結婚・出産・子育てを通じてキャリア形成やその維持について、また育児や子供の教育にかかわる母親として仕事と家庭の両立を悩み、選択を迫られることになります。これらに対してふじのくに女性医師支援センターは県内医療機関と連携を図り、県内の医療機関に携わるすべての女性医師に対して休業中からキャリアを継いでいけるよう就業支援活動、子育て支援など家庭を支えるために両立可能な勤務形態を実現させキャリアを継いでいくことに支援していくことを目指しています。

自身浜松医科大学を卒業後、浜松医科大学産科婦人科科学教室に入局しいつまでも生き生きと子育て・家庭生活の悩みと共に産婦人科医として県内勤務を働き続けています。これからは自身の家庭生活を大切にしながらキャリアアップを目指す医師の皆さんにとってコゴキネータとしての就業支援をすべく活動していきたいと考えています。

仕事と家庭の両立の両方を実現したいかと思いきや小学校、中学校と年齢が上がるにつれて負担は減ることはありません。女性医師のキャリアを伸ばしていく経験はいろいろな形で、後に続く人たちも望んでいます。最終的には県内の女性医師同士がつながるネットワークの構築も期待したいと考えています。皆さんに届くことによりこの『ふじのくに女性医師支援センター』の活動も発展していくものと考えています。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

谷口 千津子
浜松医科大学産科婦人科医局長
女性医師支援センター 専任医師

事業概要

静岡県産科婦人科の女性医師支援を推進する「ふじのくに女性医師支援センター」を設立し、これまでの普及啓発、情報発信を中心とした支援に加え、出産等により離職した女性医師からの就業相談、産科医局とのマッチング、キャリア形成支援、病院訪問による就業促進の情報収集など、より実効性の高い取組を積極的に実施することにより、女性医師が県内で更に活躍する仕組みを構築します。

活動内容

キャリアサポート

キャリアコンサルタント
出産・育児や介護などライフイベントによる医師としてのキャリア継続の不安を抱える方々、休職中の方、復帰を考慮している方へのキャリア支援のためのコンサルティングを行っています。

就職支援
女性医師の育児休業等による離職後のスムーズな就職復帰による就職後のキャリアアップに役立てるべく、県内各所に配置した働き方支援センターです。

啓発活動
静岡県医師会、浜松医科大学と共催で講演会やシンポジウムを開催しています。これからの医師を目指す方、現在働いている先生、病院の管理者の先生方が情報共有できるようなイベントを通して情報発信をしています。

両立サポート

情報提供
・市内産科婦人科の状況情報
・自治体の育児施設情報
・そのほかの育児サービス情報等々、個々のケースに対応した情報提供を行っています。

マタニティ白衣・マタニティパンツの無料レンタル
ふじのくに女性医師支援センターと浜松医科大学女性医師支援センターの協働事業です。産前産後を問わずさまざまなサイズのワンピースを備えながら、快適に業務に携わることが可能となるようサポートします。

③周知カードの配布

様々な方にセンターの存在を知って頂き、すぐに相談が出来るよう周知カードを作成しました。

(表)



(裏)



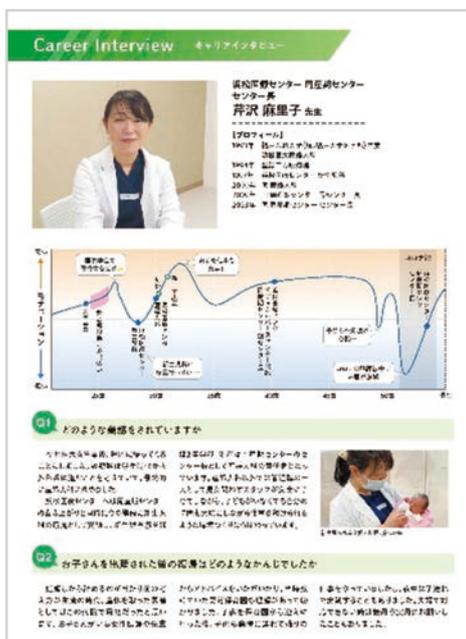
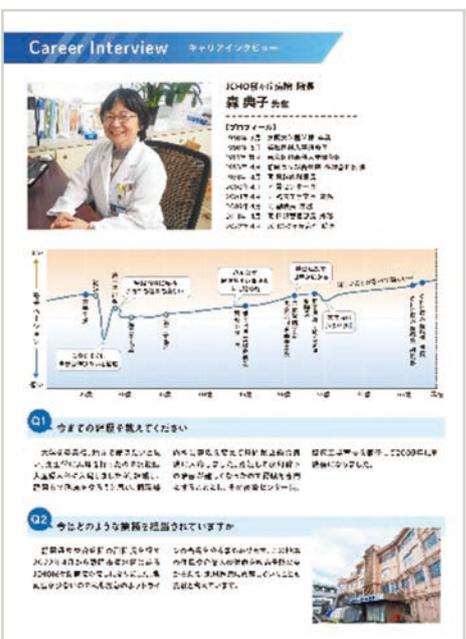
※ポケット付きチラシにて配布



④静岡県内の女性医師が「自分の今後（将来）」を考えるきっかけに！ 冊子『じぶんらしく たのしく はたらく』を発行

静岡県内で仕事と家庭の両立をしている先輩女性医師のロールモデル記事や、指導者・管理者として活躍する医師のインタビューをまとめた冊子「じぶんらしく たのしく はたらく」を発行しました。

女性医師の仕事と家庭の両立という課題に対して、様々な立場で働く女性医師の実際をよく知ること
で、「わたしにとって、自分らしく仕事を続けるってどうすることだろう」と、考えるきっかけになっ
て欲しいと思います。



⑤講演会・シンポジウム等の参加

令和6年11月17日

女性医師支援・ドクターバンク連携中部ブロック会議

議題「働き方改革施行を受けてー特に、女性医師にとっての働き方改革ー」

現地開催（金沢市）

令和7年3月4日

令和6年度第1回全国ダイバーシティネットワーク組織 東海・北陸ブロック会議

・東海・北陸地域の18大学が参加し各大学のダイバーシティ関連状況を報告

Web会議

⑥メディア掲載

静岡新聞 朝刊 令和6年10月12日

「女性医師支援へ冊子発行」

女性医師のキャリアアップを後押ししようと、ふじのくに女性医師支援センターはこのほど、オリジナル冊子「じぶんらしく たのしく はたらく」を発行した。結婚、出産を経て職

場復帰した医師をロールモデルとして紹介し、仕事と家庭の両立を希望する女性医師の活躍を支援する。

浜松医療センター周産期センターの芹沢麻里子センター長や独立行政法人地域医療機能推進機構（JCH）の桜ヶ丘病院の森典子院

女性医師支援へ冊子発行 キャリアアップモデル紹介



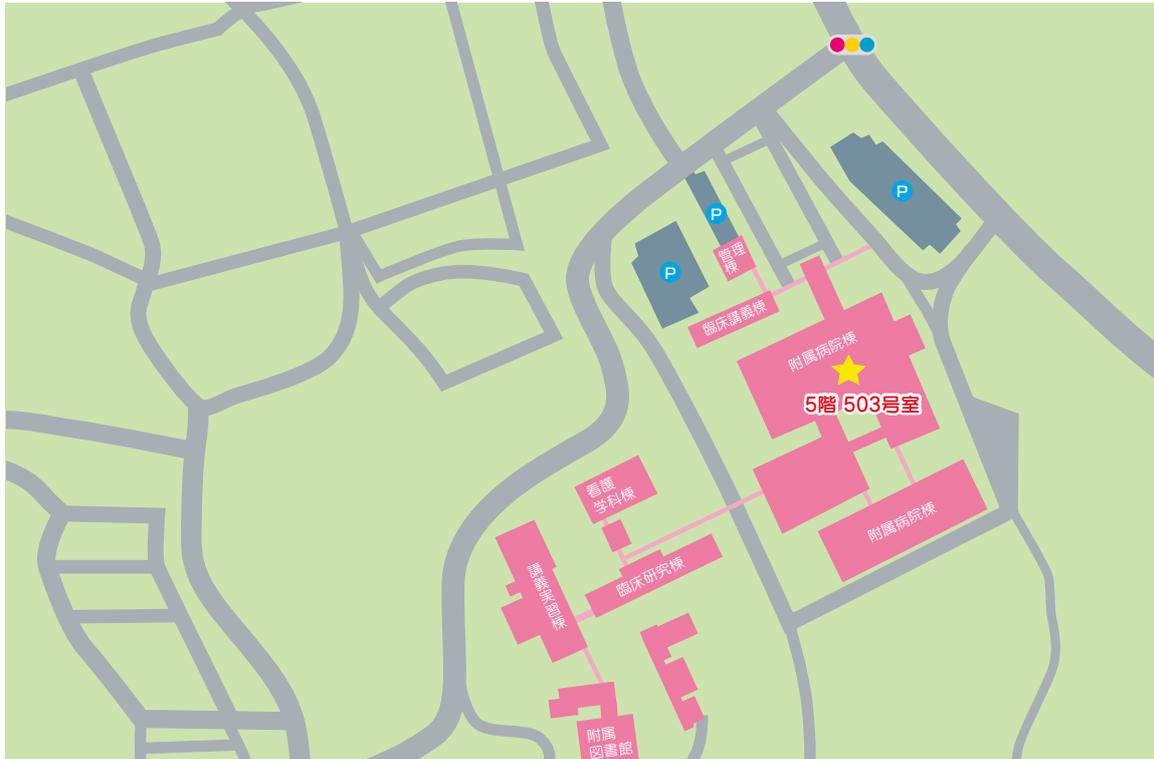
女性医師のキャリアアップ支援のため作成した冊子「県庁」

長といった、組織のトップを務める女性医師のインタビューを掲載した。大学卒業後から現在までのモチベーション、キャリアアップの経緯、キャリアアップに伴う意識の変化、後輩へのアドバイスなどについて語っている。

育休後に復帰した女性医師の診療科や勤務形態、オンとオフの切り替えや仕事のやりがいなどの簡単なQ&Aも載せた。

同センターの谷口千津子さんは「女性医師が育休後に現場に戻るだけでなく、そこから一歩次に進めるよう、新たなモチベーションを持てるきっかけになれば」と期待した。冊子は県内の医療機関に配布したり、学会で配ったりする。

34 アクセス・発行について



令和6年度ふじのくに女性医師支援センター活動報告書

発行 印刷日 3月22日

発行 3月29日

発行所 ふじのくに女性医師支援センター

〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山1-20-1

浜松医科大学医学部附属病院医師トータルサポートセンター内

電話/FAX 053-435-2380

E-mail dr-info@hama-med.ac.jp

URL <https://www.fujinokuni-w.jp/>

編集 センター長 山内克哉

コーディネーター（医師）谷口千津子

コーディネーター（事務）袴田菜穂子